

## 2 指導の重点

## (1) 各教科、「特別の教科 道徳」、総合的な学習の時間、特別活動

## ア 各教科

- ① 授業のねらいを明確にして、分かる授業を展開するとともに、メタ認知向上の一途としての振り返りの時間を確保する。
- ② 学び合う姿勢を大切に、問題解決的な学習や言語活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫・改善を図った授業を推進する。
- ③ 生徒による協働の対話の時間を単元ごとに確保し、多様な意見や考えが出せる課題を設定し、ファシリテーションの手法を用いて、対話活動の活性化や促進化を試みる。
- ④ 数学・英語では指導方法工夫改善加配教員を活用した習熟度別・少人数授業を行い、さらに英語では英語指導助手の活用を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るとともに、コミュニケーション能力の向上及び生徒の実態に応じた指導の充実を目指す。
- ⑤ 保健体育では、救命救急講習会やダンスの授業を関係機関や大学の協力を得ながら実施する。
- ⑥ 家庭科では栄養士とのチームティーチングや講師による食育の授業を展開していく。
- ⑦ 学習習慣を身に付けさせるために、国語科では漢字コンクール、数学科は計算コンクール、英語科はスプリングコンテストを年間に数回実施し、基礎的な学力の定着を図る。
- ⑧ 運動会や合唱コンクール、作品展などの学校行事との関連を図った指導計画を作成し、生徒の関心・意欲の向上を図りながら、自己表現の力を深化・発展させる。

## イ 「特別の教科 道徳」

- ① 『考え、議論する』道徳の授業を通して、多面的・多角的に考える力を身に付け、人間としての生き方についての考えを深めさせる。
- ② 道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体と道徳の時間との関連付けを図りながら、「命の教育」を推進し、自他の生命を大切に、他を思いやる心を育てる。
- ③ 赤ちゃんのチカラプロジェクトや職場体験などの活動を継続し、道徳的実践力を高めるとともに、道徳授業地区公開講座や国立ハンセン病資料館の方の講演会を充実させるなど、保護者や地域社会と連携した活動を推進する。
- ④ 道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の積極的な参加や協力を得て、共通理解を深め、相互の連携を図る。
- ⑤ 特別支援学校等の訪問演奏、老人ホームにおけるボランティア活動等の体験を通して、自他ともに尊重できる豊かな心の醸成に努める。

## ウ 総合的な学習の時間

生徒に身近で興味あるテーマを設定することにより、学習や課題に対して自ら進んで探求したり協議することを通して、課題を解決していく能力を育てる。また、レポート等の紙面発表、口頭発表、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、発達段階に応じた指導計画を作成することにより、表現力、発表力を育成する。さらに、インターネットや学校図書館を活用することにより、情報収集・活用能力の伸長を図る。

## エ 特別活動

- ① 運動会や合唱コンクール等の学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の活躍する場を大切に、成就感や充実感を味わわせ、集団への所属感を深めさせる。
- ② 学校保健委員会の機能を活用し、生徒の活動や外部講師の講演を通して、健康教育を学校及び地域に広げる。
- ③ 生徒会主催のアースデー、落ち葉清掃、SDGs活動の一環としての空堀川清掃活動などのボランティア活動の充実を目指す。

## (2) 特色ある教育活動

## ア ファシリテーション研修の継続

対話的な活動を活性化させるために、また深い学びに直結できるように、ファシリテーションの研修を今年度も継続する。二学期までにファシリテーターの講師とともにチームティーチングや講師の模範授業を通して、実践に基づいた研修会を4回にわたって実施する。また生徒もファシリテーターになることを意識させ、そのための手法を習得させていく。

## イ ルーブリック評価の研究推進

本校独自のあらゆる教科や単元に共通した「コモンルーブリック評価表」を作成し、活用を図っていく。そのために外部講師の指導のもと、効率のいいルーブリック評価の在り方を模索し案出し、生徒の実態に即したものを最終的に決定する。

ウ SDGs に向けての生徒会の取組の充実

SDGs の 14 番目の「豊かな海を守ろう」の目標を達成するべく、生徒会の自主的な取組を支援し、空堀川の清掃活動のより一層の充実を目指していく。世界的な取組を自校の活動につなげることができた生徒会の昨年度の取組を踏まえて、今年度は、生徒一人一人の思考及び行動につなげていけるようにする。

エ キャリア教育の推進

1 年次に職場訪問または職業の話聞く会、2 年次は職場体験を通して、事前及び事後学習を丁寧に行い、基礎的・汎用的能力の育成に努める。

オ 教育相談を基点とした指導体制の維持

毎週一回実施する管理職、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、特別支援教育コーディネーター、各学年主任、養護教諭で組織する教育相談会の内容を充実させ、情報共有を図りながら、具体的な支援の在り方を確認する。

カ 読書月間とビブリオバトル

年間を通じて朝学活の前に朝読書の時間を設ける。また各学期に一回、読書月間（6 月、1 1 月、2 月）を設定し、朝読書の時間を延ばす。また、年一回、図書委員会主催のビブリオバトルを行う。

キ 四中未来塾と四中数学ルームの充実

学校支援本部が主催する四中未来塾では、検定試験対策講座を実施する。開室は毎週水曜日放課後、地域コーディネーターの紹介の講師を中心に運営する。

四中数学ルームは、学生の教育インターンシップ生及び教職大学院生を中心に講師を編成し、基礎的な数学の問題を指導する。開室は毎週木曜日放課後に設定する。